

先進自治体事例紹介①

#	自治体名	講演名
1	高知県（観光振興スポーツ部 スポーツ課）	“南国土佐の情熱が舞う” よさこい発祥の地・高知によるダンスを活用した地域の活性化

【発言要旨】

■ 高知県の現状と課題認識

- 高知県は県土の約9割を中山間地域が占め、人口は約69万人と全国でも少なく、出生数は1975年から約15年早く減少局面に入った。
- 少子高齢化や人口減少により、地域の活力低下、子どものスポーツ環境の縮小、指導者不足が顕在化している。
- 特に中山間地域では、身近な場所で参加できるスポーツが限定され、運動習慣の定着が課題となっていた。

■ ダンスに着目した背景と狙い

- 子ども・保護者向け調査では、「やってみたい」「ささたい」スポーツとしてダンスのニーズが高いことを確認。
- ダンスは一人でも始めやすく、専用施設や用具を必要とせず、多世代・多様な人が一緒に楽しめる。
- また、障害の有無に関わらず参加できるインクルーシブな特性を持つことから、スポーツ参加拡大の有効な手段と位置づけられた。
- よさこい祭りに代表される踊り文化が根付く地域性も追い風となった。

■ 民間のプロダンスチームとの連携と具体的施策

- プロダンスリーグDリーグに参戦する「CHANGE RAPTURES」を運営するPERF株式会社と連携協定を締結し、学校授業、部活動、地域ワークショップ等にプロダンサーが関与する体制を構築。
- ICTを活用したりリモート指導により、指導者不足の

中山間地域でも継続的な活動を可能とした。

- 嶺北地域でのダンス環境整備、特別支援学校と大学生の合同によるインクルーシブダンス、専門顧問がいない部活動支援など、三つのモデル事業を展開。

■ 成果と評価

- 参加者はダンスの楽しさを実感し、技術向上や仲間づくりにつながったとの評価が多く得られた。
- 地域内外の関係者が連携する体制が形成され、初開催のインクルーシブダンスイベント「What's up!」には多くの来場があった。
- これらの取組はスポーツ庁「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰2024」において長官特別賞を受賞し、全国的にも先進事例として評価された。

■ 今後の展望

- ダンスを通じて子ども・若者・障害者が生き生きと参加できるスポーツ環境を継続的に拡充し、若年層のスポーツ実施率向上を図る方針である。
- 地域独自の踊り文化やよさこい祭りとの連動、多世代交流の促進により、コミュニティ活性化や交流人口の拡大、若者の県内定着につなげていく考えである。
- ダンスは地方創生における汎用性の高いツールとして、今後も大きな可能性を持つ取組であると認識している。

【主な質疑】

■ プロダンスチームとの連携協定のきっかけは何か。

- 県内のスポーツコミッション理事と運営企業社長が旧知であったことが端緒である。
- その縁を起点に、県内課題の解決にダンスが有効であるとの認識を共有し、協定締結に至った。

■ イベントの自走化や行政による関与の今後はどう考えるか。

- 本イベントはインクルーシブを軸に障害のある人の発表機会を定着させる点に意義がある。
- 定着が見えれば区切りを設けうる段階と捉える。
- 取組後、県内ダンス関係者の連携が深まり、従来と異なる視点のレッスンが展開されるなど波及効果が生じている。

■ 市町村との関わりはどう進めたか。

- 山間部の嶺北地域で担当者会議を定期開催し、ニーズ調査やアンケート結果を共有して企画を検討した。
- 学校経由のチラシ配布や会場提供などの実務連携、さらに高知市外（例：土佐市）での開催にあたり地元担当者から地域チームの紹介を受け、参画を広げた。